

令和6年度

「新時代に対応した高等学校改革推進事業
(普通科改革支援事業)」

北海道釧路湖陵高等学校
成果物



目 次

I 研究開発の内容（詳細）

1 会議関係

- (1) 運営指導委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 3
- (2) コンソーシアム会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 9

2 学校設定教科「KQ」

- (1) 釧路市立博物館学芸員による出前講座・・・・・・・・ p. 12
- (2) 校外巡検・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 14
- (3) 地域創生プラン作成・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 17
- (4) 「夢ナビライブ」を活用した学際領域学習・・・・・・・・ p. 19
- (5) 力学の研究「重力加速度の測定」・・・・・・・・ p. 21
- (6) 外部連携支援事業活用講演会・・・・・・・・ p. 23
- (7) アカデミックインターンシップ・・・・・・・・ p. 25
- (8) 「KoryoQuest」特別講演会・・・・・・・・ p. 28
- (9) 成果発表会に係る事前指導・・・・・・・・ p. 30
- (10) 探究ルーム設置・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 32
- (11) 令和7年度の教育課程の編成・・・・・・・・ p. 33
- (12) 推薦入学者選抜作文検査問題の作成・・・・・・・・ p. 34
- (13) 視察記録（兵庫県）・・・・・・・・ p. 36

3 目標の進捗状況、成果、評価、課題

- (1) 令和6年度自己評価及び課題・・・・・・・・ p. 39
- (2) 生徒の資質能力に係る評価結果及び分析・・・・・・・・ p. 41

II その他

- ◇コンソーシアム「チーム湖陵」構成員一覧・・・・・・・・ p. 55
- ◇令和5年度入学者教育課程表(A表)・・・・・・・・ p. 56
- ◇令和6年度入学者教育課程表(A表)・・・・・・・・ p. 58
- ◇令和7年度入学者教育課程表(A表)・・・・・・・・ p. 60
- ◇新聞記事・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 62
- ◇学校説明会ポスター・・・・・・・・ p. 75
- ◇北海道釧路湖陵高等学校 SCHOOL GUIDE 2025（学校案内） p. 76
- ◇文理探究科通信(No1)・・・・・・・・ p. 86
- ◇文理探究科通信(No2)・・・・・・・・ p. 88
- ◇文理探究科通信(No3)・・・・・・・・ p. 90

I 研究開発の内容（詳細）

1 会議関係

(1) 令和6年度（2024年度）普通科改革支援事業 運営指導委員会

<第1回>

日 時 令和6年（2024年）8月5日（月）9:00～12:00

会 場 道庁別館7階教育委員会会議室及び各所属の会議室等（ハイブリッド形式）

出席者 運営指導委員（山中康裕、篠原岳司、赤間幸人、松岡宏尚、吉永 洋（オンライン）、岡部義孝、沼田拓己（オンライン）、滝田尚誠）

指定校校長（渡辺淳一、埴 浩伸、福本正規）

内 容 : 1 行政説明（高校教育課）：第1回運営指導委員会の趣旨等

2 大樹高校の説明（福本校長） ※詳細は省略

3 大樹高校の取組に関する質疑応答・協議 ※詳細は省略

4 釧路湖陵高校の説明（埴校長）

※説明の最後に、校長から道教委に対して「今後の道内の新学科設置の方向性」の確認、及び「今後の本事業の継続の方向性」に係る質問があった。

5 釧路湖陵高校の取組に関する質疑応答・協議

・なぜ、教員は校内研修に参加するようになったのか。（松岡委員）

→おそらく、教員自身が困ったり、必要としたりするテーマなので参加しているものがあると考えている。（埴校長）

・校内CNになりうる教員について、どのように確保したり、育成したりする必要があると考えているか伺う。（篠原委員）

→今は、本事業にあるCN研修に参加できているので、それでよいと考えている。あくまでも、設置者等が「外部CN」を学校に配置すべきであるが、それが間に合わない時を踏まえて「配置されなくても困らないよう学校体制を構築する必要があると考えている。（埴校長）

→校内CNである教員の取組が全体に還元されたりするとよい。今後、CNのなり手不足が見込まれている。（篠原委員）

→北海道文教大学の新設学科において、地域CNの養成を始めると聞いている。（渡辺校長）

→大学で養成されたCNが教員として勤務するのか、それともCNの業務だけ従事するのかがわからない。（埴校長）

・情報と国語が教科横断的な学びでつながることはよいことである。学びの振り返りにおいては、作文を書くことがほとんどである。作文の能力は、むしろ理系の方が必要となっている。大学においても「アカデミックライティング」という科目を設置し、論文作成に必要な能力を身に付けさせている。論理的に書くということが大切である。現在、生徒が書いたものから、読み手が「生徒の気付き」を理解するという取組を行っているところである。（山中委員）

6 岩見沢東高校の説明（渡辺校長） ※詳細は省略

7 岩見沢東高校の取組に関する質疑応答・協議 ※詳細は省略

8 運営指導委員からの指導・助言 ※本校関係分のみ掲載

・普通科新学科での「学び」が見えてきた。新学科の立ち上げの段階から、本格的な学びにつながってきている。学校全体の取組だけではなく、教員の悩み、気持ち、役割などについても、本運営委員会の場でいろいろと伝えてほしい。地域との連携につい

ては、「学校外との連携」から「地域に呼ばれて行く」というようになってほしい。また、その連携などが最終的に生徒の学びにつながるとよい。（山中委員）

- ・3校とも教育課程については固まってきており、今は修正・改善のステージにあると考えている。ここからは教員の働きにシフトしていくことになる。教員が不安の中でチャレンジした結果がどうであったかは、生徒の姿でしか表出せず、生徒の学びをよく見て確かめていく過程が必要となろう。その上で、教員がチャレンジの意義ややりがいを感じられるようにすることが大切である。また、教員の学びのサイクルをどのように構築していくのかについては、本運営委員会の課題でもある。教員の姿は、生徒の学びのモチベーションにもつながる。（篠原委員）
- ・3校の教員同士、生徒同士が交流する場はないのか。教員の中には、異動によりモチベーションが下がることがあるということも聞いている。交流により相互に良い影響も出るのではないかと考えている。（松岡委員）
- ・3校とも、事業の初年度から格段に取組のレベルが向上している。探究活動をやっている学校同士の交流により、教員・生徒も自身の取組が見えてくるのではないかと考えている。小中学校でも「総合的な学習の時間」の導入初期には、そのように取り組んでいた。探究については、プロセスが大事である。挫折したり失敗したりする経験が大切である。また、「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」だけでなく、そのあとのアクションを起こすことも大切である。指導する教員は、生徒の成長は勿論であるが、探究活動によって何を身に付けさせたのかという視点を持って欲しい。（吉永委員）
- ・普通科新学科になって何が変わったのか、また探究とは何かということについて改めて周知する必要があると考えている。カリキュラムを含め、学校の内部が整備されてきていると感じている。今は、保護者や地域が理解を深めるフェーズにあると考えている。どういった学びを学校で行っているのかということについて示す必要がある。（沼田委員）
- ・学校改革を進めるときには、教員が改革に立ちほだかることが多々あり、これを進めるためには、校長の役割やリーダーシップが極めて大きいものと考えている。また、ピンチをチャンスに変えてほしいと思う。岩見沢のような学校の統廃合は、地域からは否定的に捉えられるのが通例であり、思えば釧路湖陵の改革も間口減のタイミングに合わせて行ったもの。今回の報告を通して、普通科改革には地域との連携が不可欠であると改めて感じたところであり、そのような意味では、釧路市内の道立高校は地域との連携が今一つであり、このままでは改革がなかなか進んでいかないように感じる。ぜひ、3校の具体的な取組を全道の道立高校に発信してほしい。（岡部委員）
- ・今後の普通科新学科の設置も含め、庁内で高校の在り方について検討しているところである。本事業について、今後も文科省で新規募集を継続するかについてはまだ確認ができていない。ある校長先生が、自校の生徒に、高校で身に付いたものは何かと尋ねたところ、学校が掲げる育成を目指す資質・能力とは異なる回答が多くあったという話を聞いたことがある。3校においては、生徒がどのような資質・能力を身に付けることができたのかということについて、質問紙調査やインタビューなどにより調査したものを当課あて情報提供いただきたい。（滝田委員）
- ・学際領域に関する学科の取組を進めている高校は全国で8校、東日本では3校だけなので、北海道の2校は、全国の最先端の取組となる可能性がある。釧路湖陵高校の外

部講師の講演後の生徒との座談会はよい取組である。また、探究ルームの設置は、生徒の学びを充実させる可能性に期待できる。教員が連携して教科横断的に取り組むことは学校経営の観点から優れた取組であり、釧路湖陵高校が良い実践例になる。今後のCNの配置・構築等については、国の予算事業等に、道教委も高くアンテナを張ってほしい。釧路湖陵高校の説明スライドにあったが、普通科の生徒の「探究」に対するマインドが「調べる」学習から、「データ」を分析して根拠を探究する学習になるとよい。（赤間委員長）

<第2回>

日 時 令和7年（2025年）2月17日（月）13:30～16:30

会 場 道庁別館4階第3研修室及び各所属の会議室等（ハイブリッド形式）

出席者 運営指導委員（山中康裕、篠原岳司、赤間幸人、松岡宏尚（オンライン）、吉永 洋、岡部 義孝、沼田拓己（オンライン）、滝田尚誠）

指定校校長（埴 浩伸、福本正規、渡辺淳一）

関係局教育支援課高等学校教育指導班主査・主任指導主事

内 容：1 行政説明（高校教育課）：第2回運営指導委員会の趣旨等

2 釧路湖陵高校の説明（埴校長）（※スライド資料に基づき説明）

- ・令和7年度推薦入学者選抜における作文課題について、今回から教員による作問となった。課題の取組を通して、受検者の探究に向けた力を見ることができた。
- ・本校教職員のストレスチェックでは、過去3年で一番数値（ストレスの度合い）が低くなった。項目別では「上司からサポートが得られている」ことについて、高い数値であった。しかし、本校教職員の業務の負担は大きい状態である。
- ・コンソーシアムによる学校との関わり方について、生徒の探究活動に対してプロモーターによる助言をいただくことができた。生徒からも「大変参考になった」などの声があった。今後は定期的に関わることができるようになりたい。サポーターについて、道内外の大学約40校と連携しているが、実際学校からのお願いに対して回答があったのは1校であった。サポーターとの関わり方については、根本的に変える必要があると考えている。
- ・生徒の探究活動に係る成果発表会については、広く公開することとした、その内容の一部（「探究チャレンジ・アジア（全道大会）」で二席に選ばれたもの）については、本校の生徒が釧路市長を訪問し報告した。その内容は、釧路市の施策に反映されることとなった。
- ・今年度、学校紹介のパンフレットを15年ぶりに大幅改訂するため、校内に「学校パンフレット制作委員会」を設置し、改訂作業を進めた。作業においては、生徒会執行部が年間行事のページの作成も担当した。
- ・今まで本校が実施する学校説明会は「入試説明会」の意味合いが強かったため、本校でどのようなことを学ぶのか、ということに重きを置いた「学校説明会」への改善を図った。また、引き続き根室管内からの入学を期待しており、今年度は根室管内中標津町でも実施した。
- ・今年度、視察研修で訪問した兵庫県の県立高校での情報交換において、見学旅行以外に探究等に係る「研修旅行」を実施している事例が多くあることがわかった。また、普通科新学科については、本校のように普通科すべてを文理探究科に転換するのではなく、岩見沢東高校のように普通科の一部を文理探究科に転換するほうが、フレキシブルに動くことができると感じた。

- ・外部講師を積極的に活用した講演会などは、生徒への考えるきっかけづくりにつながっている。
 - ・生徒から「探究ルームはいつも混んでいて使えない」という声もあることから、本校の学級減に伴い発生する空き教室に、探究ルームを増設することとした。
 - ・教科等横断的な授業については、十分に推進することができなかった。年度当初に、年間計画として各教科の教員が分担して担当したものを作成するほうがよいのではないかと、とも考えている。
 - ・令和7年度には、本校の地歴公民科の教員1名をコーディネーターとして指名する予定である。コーディネーターは、創意工夫加配の対象に当たるものと考えている。
 - ・道教委としてコーディネーターが学び続ける仕組みづくりをお願いしたい。
 - ・令和7年度からは「7校時に25分間のモジュール授業」を実施し、6時間目に講演会などを実施した際の振り返りの時間にしたり、6・7時間目の授業を通して実施したりすることを想定している。（これから校内決定する予定）
 - ・SSH事業において、本校の取組について「自己評価が十分ではない」という指摘もあったことから、本校において4つの生徒の自己評価に取り組むこととした。
- 3 釧路湖陵高校の取組に関する質疑応答・協議
- ・探究ルームの使用実績や使用内容について伺う。また、本取組は全道的に推奨されるものではないか。（篠原委員）
 - 探究学習での使用が多い。使用目的を制限していないため、部活動のミーティングでも活用されている。生徒はGoogle Formを通して予約することが可能となっている。今後も空き教室を探究ルームに転用していきたい。（塙校長）
 - ・探究ルームを別に設ける意味等について伺う。（篠原委員）
 - 普通教室と異なり、机や椅子などを移動させることなく使用できるメリットがある。合わせて探究学習等における普通教室の使用の在り方も考えていきたい。（塙校長）
 - ・保護者の経済状況により研修旅行に行くことは大丈夫なのか「費用がないので行くことができない」というのは避けてほしい。（岡部委員）
 - 研修旅行の費用の一部負担について本校同窓会にもお願いしているところ。全員が参加する見学旅行においても、1日自由研修にしていたものを、そのうちの半日を探究ツアーに変更する予定である。（塙校長）
 - ・テキストマイニングによる分析についてであるが、出現頻度の高い単語は、教員が期待する一般的なものになるのではないか。質問項目についても文頭に「自分たちの失敗や経験に基づいて」というのが必要ではないか。教員が生徒に対して素早くレスポンスすることが鍵となる。ストレスチェックにおいて、「教員が楽しむ＝ストレスが減る」ということがあると考える。探究的な要素が各教科の授業にどれだけ落とし込まれているかが大切である。話合う時間が探究する時間になるためには、基礎的な教科の学びにどれだけ多くの探究的な学びが含まれているかが大事である。（山中委員）
 - 生徒は学んだことを活用しながら、各教科の授業を受けている。生徒の中には、グループワークが苦手という者もいる。そういった生徒に対して、別のメニューを提供することを検討する必要があると考えている。（塙校長）

※松岡委員からのコメント（原文のまま）

探究については、特にVUCAの今に必要な能力向上に、自ら課題設定を行い、解決方法を考え、そして実行、検証することにより、深い気づきや学びを得られるものだと

思います。

その中で、冒頭の入試内容について、探究能力を測るのであれば、より答えのない問題の方が良いように思います（昨年はそのようだったとお聞きしましたが）。

※現場の先生で考えられたのは素晴らしいと思います！

答え＝正解を出す、よりも採点者の負担は増えてしまいます（属人性も高まるリスクもあり）が、その説得性、根拠性で測っていくことを採点基準としていくことで、（探究という視点の多様性というのが良いのか分かりませんが、）そのようなものを重視すると、入学後の深い見識にもつながると思いますし、横断的な知識が必要なことを先生方も意識しないかなと思った次第です。

より大学、または大学院に近いものになってしまうかも知れません。

ただ、総合的な探究を深めていくことは、大学化、院化していくので、現場の負担とのバランスも難しいですよね・・・と思っています。

現場とのつながりとしては、答えのないことを考え続けている、今の釧路湖陵のチャレンジこそが探究であり、そのような機会を子どもたちにも学びとして提供する、という姿勢で、先生方とも共有していくのが良さそうだなと（他の高校に比べると、かなり進んでいると思います）。

おそらく最終的にはどこまで同じ意識（目的感）で、権限委譲を行っていくか、という校長先生の采配かも知れません。

4 大樹高校の説明（福本校長） ※詳細は省略

5 大樹高校の取組に関する質疑応答・協議 ※詳細は省略

6 岩見沢東高校の説明（渡辺校長） ※詳細は省略

7 岩見沢東高校の取組に関する質疑応答・協議 ※詳細は省略

8 運営指導員からの指導・助言 ※本校関係分のみ掲載

- ・各指定校の取組や発表については、今までになく感慨深く内容のあるものであると感じている。3校それぞれが、向かうべき道に向かっており、それぞれの取り組み方を見つけているものと感じた。釧路湖陵高校の取組はがんばっていると感じた。地域との連携についてもよく取り組んでいる。（山中委員）
- ・3校の発表から、地域とのつながりやカリキュラムの充実の姿が見えた。生徒の成長の姿が、学校現場で目に見えてきている。それらが改革への雰囲気につながっている。ストレスチェックの結果もその表れの一つである。また、各校における「コーディネーターの活用により、教育課程の充実が図られている」という先進的な取組を示してくれている。今後は成果を全道に打ち出していくことも大切である。授業改善の進捗については、私としても気になっていたところである。高校はどのように改善をしているのか気になっていたが、探究により生徒の協働的な学びが進み、生徒がアクティブに学ぶという姿が生み出されつつある。こういったことが進学実績にもつながっているのではないかと考えている。学校への愛着や生徒自身の自己効用感が、学びに生かされている。今後、学校として発展する方向性を確認していけばよいのではないかと考えている。（篠原委員）
- ・3校の取組はよい勉強になった。生徒の多様な学びや学校の魅力化を考えることが大切なことである。小学校で実施しているNRTの結果と学調の結果、中学校の文教テストの結果と高校入選の学力検査の結果の間に乖離がみられる。探究を進める上で、社会に出たときにどう生きていくのかを意識することが大切である。（吉永委員）
- ・普通科改革は学校改革であると強く感じた。教員のやりがいややる気などの意識が改革され、生徒の成長につながったのではないかと考えている。普通科では、実社会とつながる

学びを見せることが大切である。また、高校の活性化のためには、小・中・高がスクラムを組んで連携していくことが大切である。（沼田委員）

- ・ 釧路湖陵高校の学校改革に着手したのは5年前であり、そのときの本庁担当が埴校長（当時 高校課担当課長）である。ここまで改革が進んだことについて、感慨深いものがある。2月1日に行われた探究活動発表会において、発表のあったテーマの約3分の1が地元の釧路を題材としていた。これらの学びはふるさと教育にもつながっている。また、この学びをプロモーターが支えているということも感慨深い。残念だったのは発表会当日に市内の小・中及び道立高校の教員の参加がなかったことである。次年度以降の釧路湖陵高校の改革に注視していきたい。（岡部委員）
 - ・ 普通科新学科に限らず、高校教育において「探究」がキーワードになっている。普通科新学科では、総探を含む探究に係る時間が多いことと、コンソーシアムを設置していることが特色として挙げられる。先ほど、全国学調の話題もあったところ。「探究をしっかりとやっているから、学力が高い」と言われることもあり、確かにそういったことも言えると思うが、そもそも全国学調が探究的な学びを踏まえたつくりになっている。大学入学共通テストも同様である。これらのことから、生徒に求められている学力は、探究から得られる力だといえる。釧路湖陵高校の推薦入学者選抜の作文課題を作成する委員会の取組や、校内の探究の取組を持続する体制作りなどは大切なものであると感じた。道教委としても、探究に係る体制づくりや成果の周知に尽力してまいりたい。（滝田委員）
 - ・ 釧路湖陵高校には普通科新学科の取組だけでなく、SSHの取組もある。今後も充実した取組を継続していただきたい。大学との連携については、大学側も業務多忙な面もあるので、確実に協力していただける研究者を確保するなど、再考する余地があるのではないかと感じている。今年2月12日に、中教審の高等学校教育の在り方ワーキンググループが取りまとめた「高等学校教育の在り方ワーキンググループ審議まとめ」において、探究活動における「質の高い探究とは、探究の過程が高度化することと、探究が自律的に行われるということ」と示されており、欄外の注には「高度化とは、①探究において目的と解決の方法に矛盾がない（整合性）、②探究において適切に資質・能力を活用している（効果性）、③焦点化し深く掘り下げて探究している（鋭角性）、④幅広い可能性を視野に入れながら探究している（広角性）などの姿で捉えることができる。自律的に行われるとは、①自分にとって関わりが深い課題になる（自己課題）、②探究の過程を見通しつつ、自分の力で進められる（運用）、③得られた知見を生かして社会に参画しようとする（社会参画）などの姿で捉えることができる。」と示されている。これらの点は今後、高校における探究活動を検討する際の視点になるのではないかと考えている。また、コーディネーターの配置については、普通科新学科の設置に当たって努力義務化されているが、設置後も継続して配置することも検討するとともに、道教委としても国に対して引き続き配置支援が行われるよう働きかけてほしい。（赤間委員長）
- ※委員会の最後に、釧路湖陵高校の埴校長から道内における普通科新学科の配置の拡大、コーディネーターの配置の拡大（継続）、教員の育成（スキルアップ等）についての要望や指摘等があった。

(2) 令和6年度 北海道釧路湖陵高等学校

「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」コンソーシアム会議

<第1回>

1 目的

「普通科改革支援事業」の趣旨を踏まえ、コンソーシアム登録メンバーの共通理解を図るとともに、校生徒の探究的な学習等について、今後の指導・助言をいただくことで本校教育活動の改善・充実を図る。

2 主催 北海道釧路湖陵高等学校

3 主管 「チーム湖陵」事務局

4 日時 令和6年8月30日（金）14:45～15:45

5 会場 北海道釧路湖陵高等学校 会議室

6 参加対象

(1) 「チーム湖陵」プロモーターメンバー 14:45～15:45

(2) 「チーム湖陵」サポーターメンバー 15:25～15:45

7 日程

14:30 14:45 15:15 15:25 15:35 15:45

受付	説明	休憩	生徒発表	協議
----	----	----	------	----

8 内容

(1) 説明事項 令和6年度普通科改革支援事業 事業報告について

ア 「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」第1回運営指導委員会からの報告

イ 令和7年度の普通科改革支援事業における本校の取組

(2) 生徒発表 探究活動の発表（現在までの途中発表）

・探究テーマ 「宿泊施設を利用した観光消費増加方法を探る」

発表者 千葉碧音 武田 奏 佐藤 栞

・探究テーマ 「ナッジ理論によるゴミ分別促進」

発表者 東雲稀夕 清造希華 工藤杏菜 戸田百音

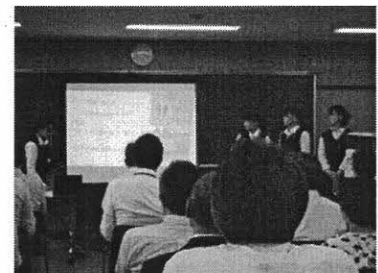
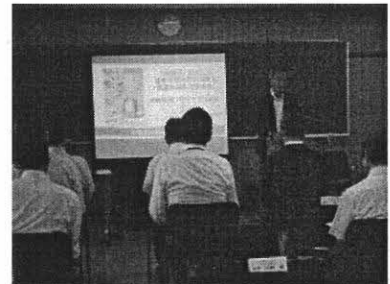
・探究テーマ 「エコロジカルフットプリント可視化アプリ開発

発表者 阿部妃奈乃 小田島心寧 矢島優芽

(3) 協議事項 生徒の探究テーマにもとづく探究的な学習への企画等の支援について

9 参加者からの意見

- ・ 生徒の探究活動について、生徒の活動に何かしらお役に立てればと考えております。今回頂いた生徒の探究テーマをもとに、案件に応じて担当者と相談し協力させていただきます。
- ・ 生徒の探究活動のテーマから、水環境におけるマイクロプラスチック関連であれば担当教員とのタイミングが合えば可能です。
- ・ 今回の生徒の探究活動のテーマを大学に持ち帰り、学内会議において担当できる項目を確認し、協力する方向で検討していきたいと思っております。
- ・ 今回の生徒発表を見させて頂き、生徒の探究活動が高まるように協力できるところは協力し



たいと思います。

<第2回>

- 1 日 時 令和7年2月1日(土) 9:00~13:00
 2 会 場 北海道釧路湖陵高等学校第1体育館・第2体育館
 北海道釧路湖陵高等学校 会議室

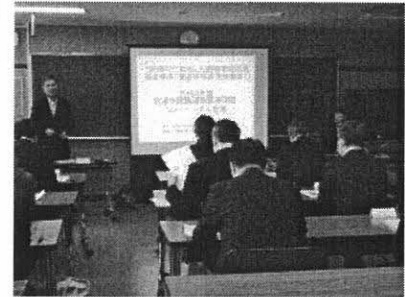
3 参加対象

- (1) 普通科改革支援事業運営指導委員
 (2) 北海道教育委員会
 (3) 「チーム湖陵」プロモーターメンバー

4 日 程

8:45 9:10 10:15 10:25 10:35 10:40 11:00

受	SSH 成果発表会(第1部) 第1体育館 ポスター発表	休	SSH成果発表会(第2部) 第1体育館 ポスター発表	移	コンソーシアム会議 (会議室)
付	第2体育館 口頭発表(ビデオ発表)	憩		動	



5 内 容

(1) 成果発表会

- ・「KCS探究(課題研究)」ポスター発表 理数科2年生
- ・総合的な探究の時間「探究活動」ポスター発表 普通科2年生
- ・ビデオ発表(第2体育館 9:30~9:50)
探究チャレンジ・アジア出場チームの探究成果発表 普通科2年生
「みんなで分別! みんなでエコロジー!
~誘導の魔法にかけられて~」

(2) コンソーシアム会議

- ア 今年度の「KQ1」「KQII」の取組について
- イ 協議



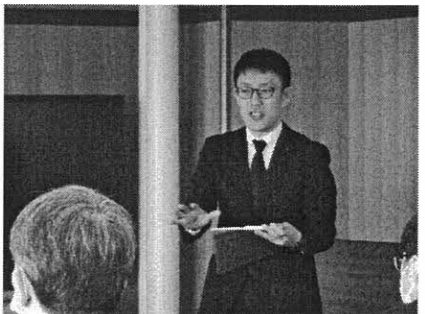
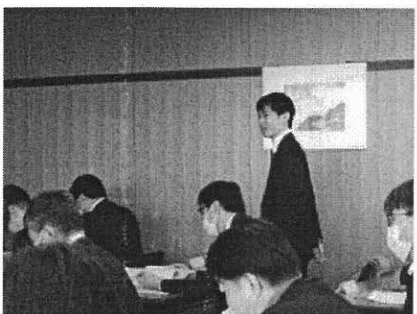
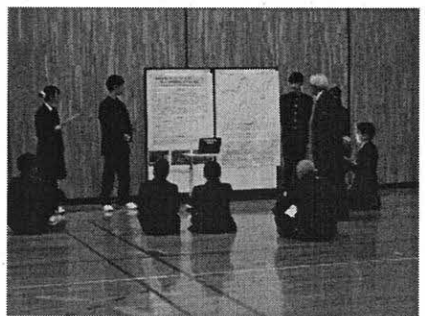
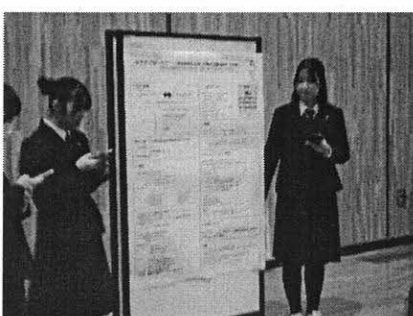
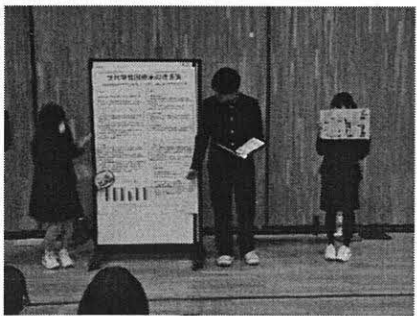
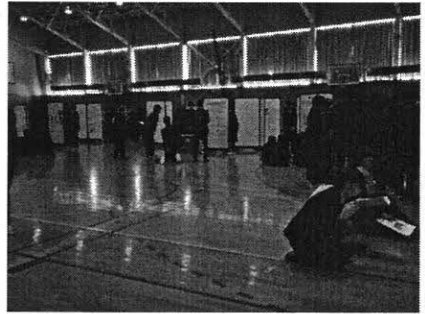
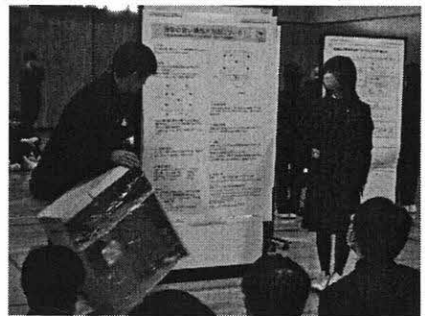
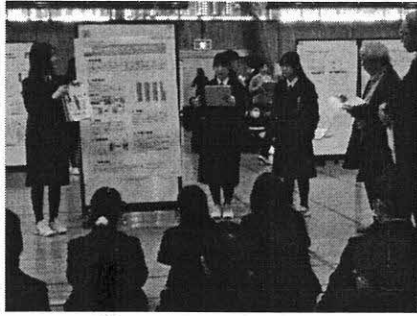
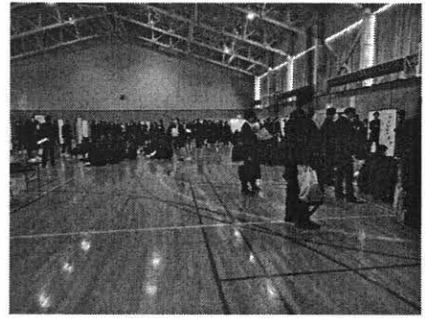
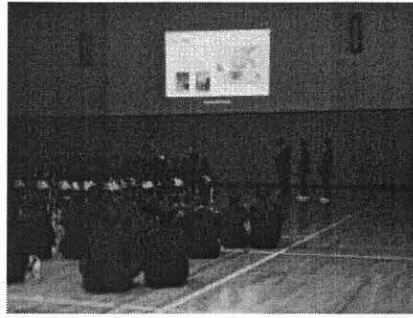
6 参加者からの意見

- ・アカデミックインターンシップで、学生と高校生の交流の良い機会となった。プログラムを実施する上でのリクエストなどを、あらかじめ具体的に提示してほしい。
- ・校外巡検では生徒に興味を持ってもらうため、従来の事業と新規事業について説明している。説明している内容はこれで良いのかと考えている。
- ・成果発表会の直前での事前指導だったので、時期をもう少し早くしてほしい。生徒の探究活動に関する助言の時期は、どの段階でどれくらい関わるのかを示してほしい。
- ・継続性を持って生徒に関わる機会を持てるように、活動を複数回企画してほしい。生徒の活動が校内での調査やアンケートになりがちであるが、校外での調査活動を実施すると良いのではないか。
- ・本校での実践していることを道内の進学校でどう発展させるか。校外活動等で学校と受け入れ側の双方が、お互いの悩みや問題点をどう共有するか。
- ・コンソーシアムの連携について、学校・コンソーシアムメンバーの課題を共有する機会を持

つことが必要である。

- ・ 生徒の学びは学校の中だけでは終わらない。いかに大人と関わる機会を持つか。就学意欲の向上等、生徒にとっての学びが多い。生徒のアンテナが高くなっている。今後はコンソーシアムのあり方や課題を共有することなどを検討する必要がある。

明日の同校
成果発表会



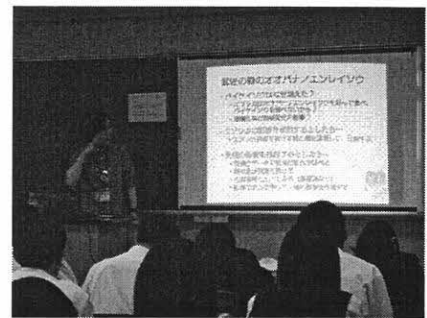
2 学校設定教科「KQ」

(1) 釧路市立博物館学芸員による出前講座

- 1 目的 探究活動の目的や意義、及び基本的な手法について、学芸員という専門的な見識や経験のある立場から、実践事例や心構え等を直接見聞することを通して、探究活動に対する意識の啓蒙を図る。
- 2 実施時期 令和6年5月31日（金） 概要説明・受講講座希望調査（5講座から2つ選択）
令和6年6月26日（水） 出前講座実施
- 3 対象 文理探究科1年
- 4 出前講座
 - (1) 日時 6月26日（水）5・6校時
 - (2) 講師 釧路市立博物館学芸員4名（釧路市立博物館は「チーム湖陵」）
 - (3) 講義分野・演題

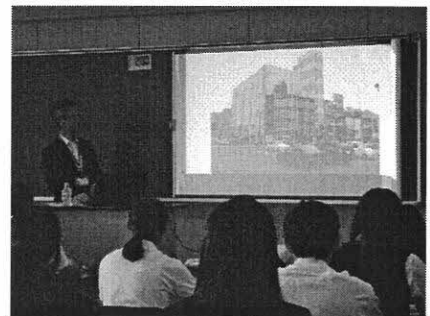
ア 「講座 植物」 『釧路の自然について、野外調査と博物館資料からわかること』

- ・概要： 自然環境や野生生物について調べる方法について。現在の状態を記録する野外調査、博物館や大学に収蔵されている標本資料や文献を調査から分かることもあります。様々な調査方法について紹介します。
- ・対象： 生物系に興味がある生徒。標本や文献資料等、古い資料に興味のある生徒。
- ・事前課題： 特にありません。



イ 「講座 地域史」 『地域を知ること』

- ・概要： 人々の営みを通して、釧路というまち・地域について調べて紹介しています。どのようなものから地域を知ることができ、地域について考える材料となるのかをみなさんと考えてみたいと思います。
- ・対象： 地域に関心がある生徒さんはもとより、関心がなかった生徒さんもこの機会に関心を持っていただければと思います。
- ・事前課題： ご自分の祖先の出身地について。



ウ 「講座 鳥類・哺乳類」 『生き物に携わる仕事～自然史学芸員の選択肢～』

- ・概要： 私は高校生の頃から漠然と「生き物に関わる仕事がしたい」と思い、辿りついた先が博物館でした。講義ではこれまでの生い立ちを含め、どうしたら生き物の仕事に携われるかについて私の考えをお話ししつつ、鳥類・哺乳類担当学芸員とし



ての仕事（標本収集・湿原での鳥類調査・普及活動等）を紹介します。

- ・対象： 生き物に関わる仕事に就きたいと考えている方、生き物が好きな方。
- ・事前課題： 特にありません。

エ「講座 考古」 『土の中に眠る人の歴史～考古学ってなんだろう？～』

- ・概要： 「そうだ。考古「学者」になろう」と思った高校時代。色々あって、現在の私は考古学（に携わる）者として博物館で働いています。土の中に眠る遺跡。そこから出土する土器や石器など…大昔の人が生きた痕跡から何を読み取り、どのように未来へと伝えていくか。学習を通して一緒に考えてみませんか？



- ・対象： 考古好き、土器や石器・発掘調査に興味がある方、将来その道で働きたい方
- ・事前課題： こっそりと絵描き唄「かわいいコックさん」を見ておいてください。

(4) 概要： 生徒は第1希望の講座を5校時、第2希望の講座を6校時に受講する。

5 生徒の感想

- ・何かを探究するにあたって、まずは日常的に周囲を見渡して疑問を持つことが大切である。テーマを決めたら、図書館や博物館、市役所やネットのほかに、人を媒介にして情報を集めるのも有効である。そのためにはコミュニケーション能力を高めることが必要である。集めた情報と情報をつなげていくことを学んだ。
- ・探究の過程には調査地点、条件を変えたり、記録を重ねたり、情報を照らし合わせるなどの方法があることを学んだ。調査・探究で大切なのは、他分野に興味を持つこと、人脈などのネットワークを大切にすること、調査対象を好きだと思うこと、調査方法や検証方法を知ることが重要であることを学んだ。そして調査方法、検証方法を知るためには、たくさんの書籍を読むことが必要だとわかった。
- ・様々なデータを観測することで、たくさんすることに気付くことができると学んだ。条件を変えて比較することで、植物や生物の関係性について気付くことができる。研究するときは、長い時間をかけて記録することがとても大切である。
- ・今回の講義で植物との触れ合い方や、何事も興味や関心などの好奇心を持つことの大切さを学んだ。手間がかかる作業であっても、その作業によって成果を得られる事があったり、誰かのためや自分の為になるのだと感じた。うまくいかない時があっても、諦めずに挑戦しようとする姿が大切だということを学んだ。

(2) 校外巡検

- 1 目的 釧路市内にある事業所・研究機関等について事前学習を行ったのちに、実際に訪問し担当者からの講話や施設見学等で事業の取組を学ぶことにより、見識を深めるとともにその成果をまとめ、情報を発信することによって、思考・判断・表現力の育成に資する。

2 実施時期

令和6年8月26日（水）概要説明・巡検先紹介と希望調査

令和6年9月17日（火）事前学習（巡検先の下調べと質問事項まとめ）

令和6年9月24日（火）校外巡検実施

3 対象 文理探究科1年

4 校外巡検

(1) 日時 9月24日（火）4～6校時

(2) 巡検先 釧路市内8施設（5施設は「チーム湖陵」）

(株)釧路新聞社・(株)釧路火力発電所・釧路海上保安部・NHK釧路放送局・釧路地方裁判所・釧路コールマイン(株)・釧路市水産資料展示室・釧路信用金庫本店

ア (株) 釧路新聞社

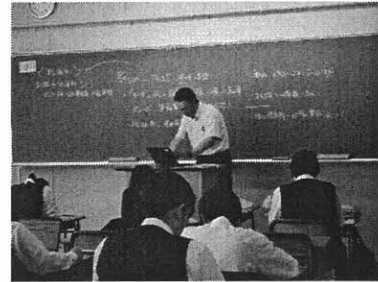
- ・内容：①企業概要説明、②社内見学、③質疑応答
- ・対象：①新聞業に興味を持つことができる生徒、②新しい知識を得ることが好きな生徒。
- ・事前課題：巡検前に会社概要等で事業内容を調べ、質問事項をまとめる。

イ (株) 釧路火力発電所

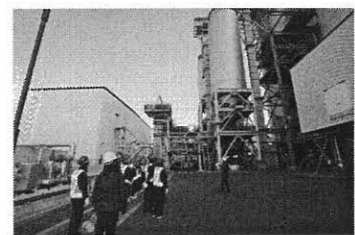
- ・内容：①発電所概要説明、②発電所施設見学、③質疑応答
- ・対象：弊社に興味をお持ちの生徒
- ・事前課題：①発電施設、釧路に発電所が存在していること、発電所の果たすべき役割について。②巡検前に会社概要等で事業内容を調べ、質問事項をまとめる。

ウ 釧路海上保安部

- ・内容：①会場保管業務（任務）の概要説明、②巡視船「そうや」の船内見学、③質疑応答、④船首側岸壁での記念撮影
- ・対象：①海難救助、取り締まりに興味のある生徒、②巡視船、灯台に興味のある生徒、③パイロット等航空に興味がある生徒のいずれかの1つでも興味のある生徒。
- ・事前課題：①事前に海上保安庁のHPで、海上保安庁の任務の種類を確認する。②海上保安庁の任務等で調べてみて疑問点等をまとめる。



<事前学習の様子>



エ NHK釧路放送局

- ・内 容：①DVD「ニュース番組ができるまで」視聴、②講話「自然災害と報道」、③リポーター／カメラマン体験&中継車見学、④質疑応答
- ・対 象：①放送業界に興味・関心のある生徒、②「報道の使命」や「報道の自由」ということに興味・関心がある生徒
- ・事前課題：巡検前に会社概要等で事業内容を調べ、質問事項をまとめる。



オ 釧路地方裁判所

- ・内 容：①法廷見学、②DVD視聴、③模擬裁判、④手続き説明等、⑤質疑応答
- ・対 象：①法律や裁判に関心がある生徒、②将来法律関係の職業に就きたい生徒
- ・事前課題：巡検前に配布したリーフレットを確認するとともに、質問事項をまとめる。



カ 釧路コールマイン（株）

- ・内 容：①会社概要説明（石炭、研修事業、新規事業）、②坑外施設見学、③質疑応答
- ・対 象：①釧路の基幹産業である石炭産業に興味がある生徒、②弊社が取り組んでいる新事業（エネルギー・環境関連）について興味がある生徒
- ・事前課題：巡検前に会社概要等で事業内容を調べ、質問事項をまとめる。



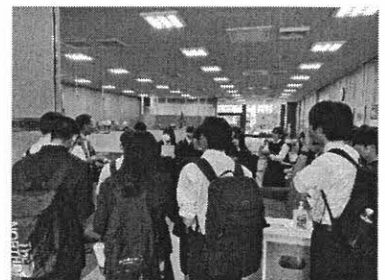
キ 釧路市水産資料展示室「マリントポスくしろ」

- ・内 容：①釧路の水産業に関する講座「漁業全般」「水産加工」「鯨」「養殖」「魚食普及」の中から1講座選択、②水産資料展示室の見学、③質疑応答
- ・対 象：釧路の水産業に興味のある生徒。
- ・事前課題：巡検で知りたいことや質問内容についてまとめる。



ク 釧路用金庫

- ・内 容：①事業概要説明（金庫の概要、課題解決支援→事業継承支援、デジタル化・DX支援、脱炭素支援、地域貢献・地方創生等）②施設見学、③質疑応答
- ・対 象：①地域金融機関に興味のある生徒、②課題解決支援、地域貢献・地域創生に興味のある生徒。
- ・事前課題：観光振興や地域経済の活性化、交流人口（関係人口）の増加を目的に、釧路の涼しさをPRする企画を考え、事前にご提出ください。（配布した資料を確認すること）

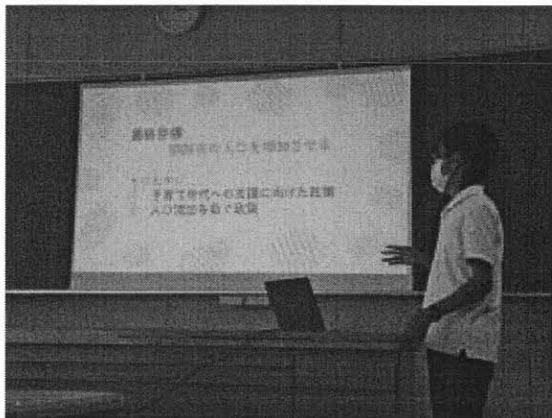
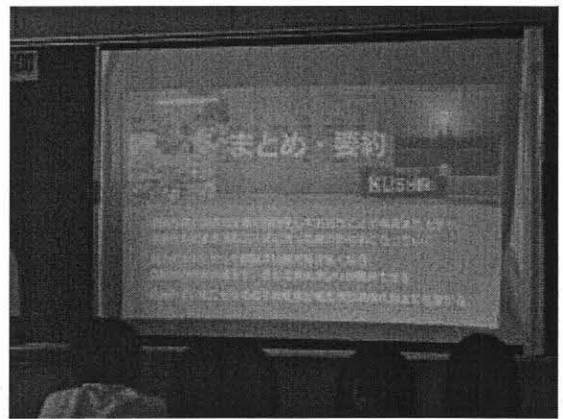
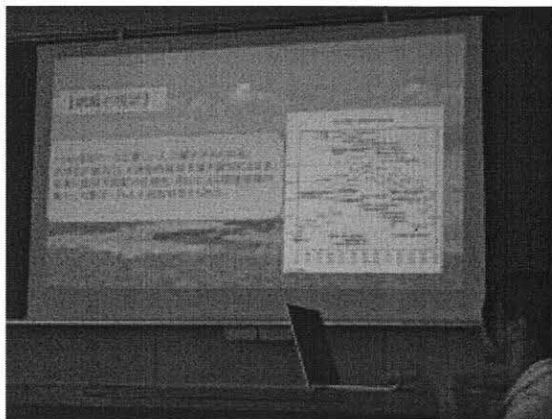
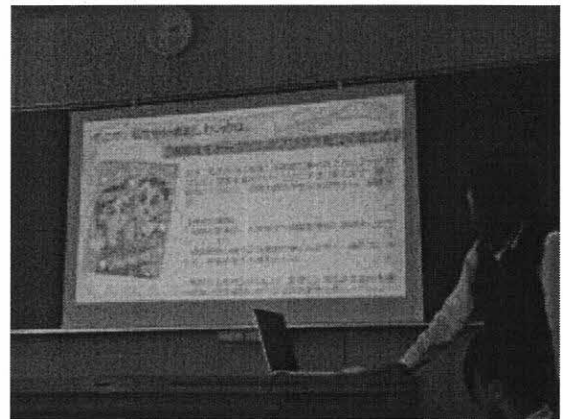
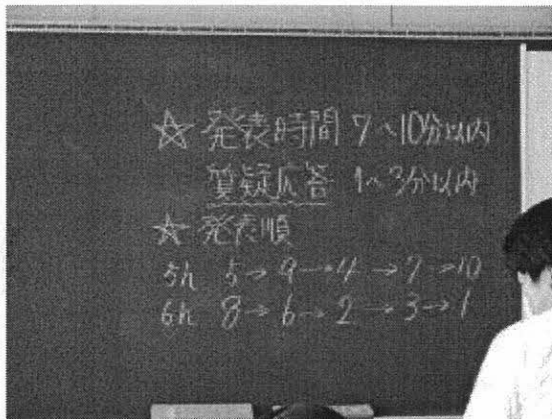


5 生徒の感想

- ・「どのように地域に貢献するか」という問いに、たくさんの観点から回答されていた。特に「釧路にはいろいろな可能性があるから、それを届けられたら地域の活性化につながるのでは」という答えが心に残った。私も何らかの形で、地元貢献したいと思った。
- ・釧路新聞社では取材を行う際に、「先入観を持たず、広く平らかな心を持って」ということを意識していると教えていただいた。私もこれを見習って、これからのKQや探究の時間に先入観を持たず多角的な視点を持ちながら活動したいと思った。
- ・講話を聞いて、「自分が働くときにその仕事や工場が地域に及ぼす影響をしっかりと調べた上で、自分に何ができるのかを考え、責任を持って働くことが必要だ」ということが分かった。今後は私も、自分の行動に責任を持っていきたいと思った。
- ・火力発電所は、騒音などの問題をクリアする必要があり、非常に大変であることがわかった。自宅に当たり前のように電気があるということは、他の人が努力しているお陰であることがわかった。自分を取り巻く当たり前のものを今以上に大切に扱っていきたい。
- ・説明をしてくださった方が「進路などで悩んだときそういえばこんな体験したなど、今回の体験を思い出してくれたらいい」と話されていて、今回の巡検は本当に普段はできない良い体験で、やりがいを感じられ誇れる仕事だと思った。
- ・今何が求められているのかを正しく判断して、それが自分のやりたいことではなかったとしても、全力で頑張れる人になろうと思った。今回の経験を自分の糧として、将来に役立てようと思った。
- ・今回の学習を通して「人にわかりやすい言葉で話すこと」「臨機応変に対応すること」の重要性に気付くことができた。常に”自分目線”ではなく”第三者の視点”を忘れず、言葉選びに気をつけたいと思った。
- ・模擬裁判をしたときに、色々な情報を多角的に見て考察するのが、難しいけれど大切な事だと思った。日常的な出来事に関しても、他者の意見を尊重しながら自分の意見を深めていく事が重要だと感じた。法律などが社会に与える影響を考え、地域社会の問題を解決する方法を自分で考えていきたい。
- ・巡検先の方が仕事をする上で特に注意していることとして挙げられていた、「目的・ゴールをもって行動すること、失敗を恐れず行動すること」ということを、今後の活動で活かしていきたいと思った。。また、「すべての物事には歴史があり、意味・意義がある、そして探究ができるという」考えは、これからのKQ・探究の時間で活かせると思うので忘れずにいたい。
- ・生産量を重視し自社の利益を優先するのではなく、働く人の安全や環境問題に目を向けての対策を行うことは、目先のことに促われず広い視野で活動していると思った。このような考えは自分も行うべきだと思うので、今後他の人の事も考えながら行動できるように心掛けたい。

(3) 地域創生プラン作成

- 1 目的 RESASやV-RESAS等のデータを活用して地域の現状分析を行い、地域創生に関わるプランを作成する。データに基づいた分析力を育成するとともに、地域の一員として地域創生について主体的に考える姿勢を育成する。また、発表する機会を与えることでプレゼンテーション力を向上させる。
- 2 実施時期
 - 7～9月 実施内容の説明・対象地域の決定・現状分析・地域創生に関わるプランの検討
プレゼン資料の作成 (11時間)
 - 発表会 (2時間)
- 3 対象 文理探究科1年
- 4 地域創生プラン発表会
 - (1) 日時 令和6年9月9日(月) 5・6校時
 - (2) 会場 1年文理探究科各教室



5 内閣府「地方創生☆政策アイデアコンテスト2024」への参加

(1) 「地方創生☆政策アイデアコンテスト2024」とは

地域の現状・課題について、地域経済分析システム (RESAS)、デジタル田園都市国家構想データ分析評価プラットフォーム (RAIDA) 等を使って分析し、解決策となるような政策アイデアを提案する。

(2) 本校生徒の参加

ア 地方審査 (北海道ブロック) 高校生・中学生以下の部に出場。

・ 第一次審査通過、第二次審査で「北海道経済局 局長賞」受賞。

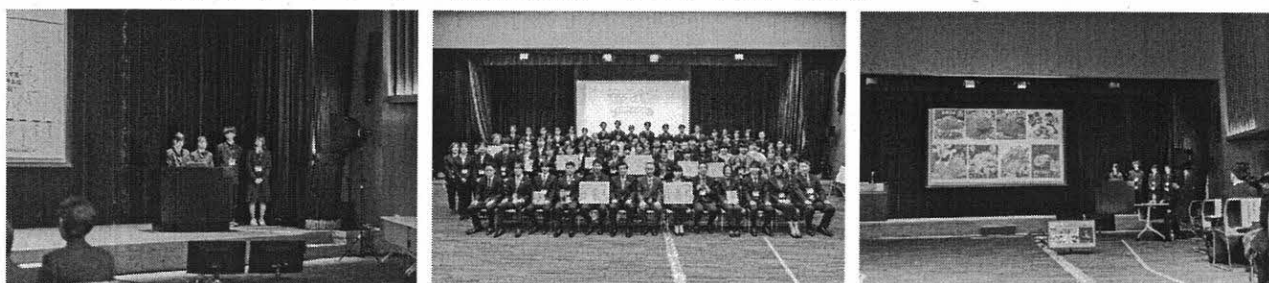
「羅臼ちゃんねる！」が最終審査会に出場

チーム名	テーマ
「羅臼ちゃんねる！」	「ふるさと納税で” 鱈ふく ” 食べよう！」 ～羅臼の海から絶品お届け～
「浜中班」	「浜中町の活性化」
「今日勝ち行きたい強化地域隊」	「塩トマトで阿寒を知ってもらおう ～阿寒このままじゃアカン～」



イ 最終審査会 令和6年12月7日 (土) 9時30分～18時00分 内閣府講堂 (東京都) にて開催

「羅臼ちゃんねる！」 協賛企業賞「さとふる賞」を受賞



6 「No Maps 釧路・根室2024」の「高校生ビジネス&地域創生コンペティション」への参加

(1) コンペティションの目的

釧路・根室管内の高校生が、地域の課題を検討分析し、産業振興、地域活性化に資するビジネスプランを創造する機会を通じ、アントレプレナーシップ (起業家精神) を学び、もって地域の人材育成を図ることを目的とする。

(2) 本校生徒の参加

高校生ビジネス&地域創生コンペティションに4チーム出場

令和6年12月19日 (木) 12:00～18:00 釧路プリンスホテルにて開催

(4) 「夢ナビライブ」を活用した学際領域学習

1 目的 様々ある学問分野について広く知るとともに、異なる学問分野の繋がりについて考え「文系」「理系」などといった学問領域を超えた新しい発想を生み出す力を養う。

2 実施時期

令和6年10月7日(月)～28日(月) 5・6校時 (6時間)

3 対象 文理探究科1年

4 概要

(1) 1本目の講座は、データサイエンス系の講座を選択し視聴する。

(2) 2本目の講座は、理学系統・工学系統・医学系統の3学部から1つ選択する。

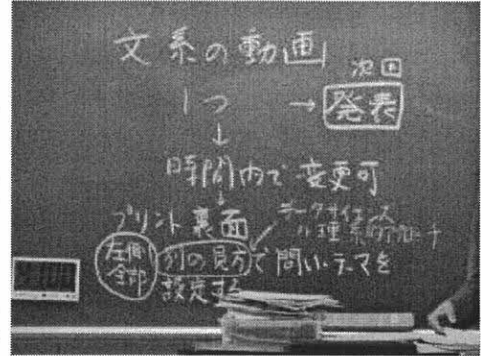
(3) 3本目は文学・人文系統、社会学系統から選択して視聴する。この講座が自分のテーマとなる。

(4) テーマを設定し、データサイエンス・理系からアプローチする方法をまとめる。

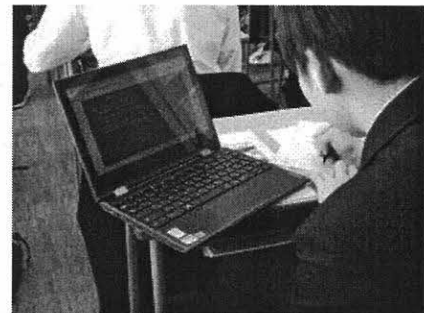
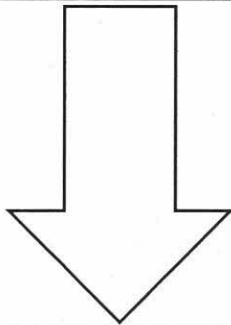
(5) 10月28日(月) 5・6校時に、発表会(ワールドカフェ方式)を実施する。

5 生徒の発表

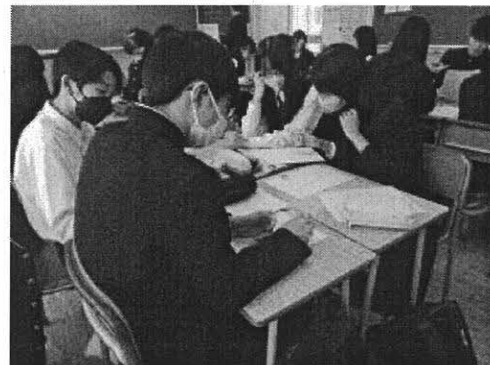
(1) 発表1



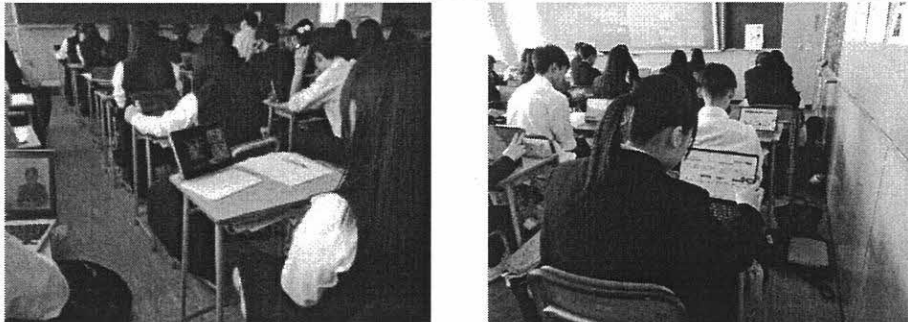

	視聴した講座
1 本目の講座 2 本目の講座 3 本目の講座	「ビジネスの世界におけるデータ活用」 「テクノロジーで”あったらいいな”をデザインする」 「こころってなあに～目に見えないところを探る～」



設定したテーマ	『データ・テクノロジーを活用して、一人ひとりに合う教育を』
アプローチ方法	一斉教育ではなく、子ども一人ひとりに適した教育法を考察する。データ分析によって見つけ出した 教育の課題を分別・パターン化し、テクノロジーで解決できるようなデザインを作り、心理学を重ねてより良い教育を創り、教育の場で活用する。



(2) 発表2

	視聴した講座
1 本目の講座 2 本目の講座 3 本目の講座	「デジタルの世界で命を救う～交通事故ゼロをめざして～」 「データヘルスが社会を支える」 「農学概論 私たちが生き延びるための農学を創る」
↓	
設定したテーマ	『インターネットで農業を支える』
アプローチ方法	ドローンなどで農地を分析・データ化する。AIの本格的な農業への導入により、農業の効率性を上げ、環境への負荷の削減を目指す。 

(3) 発表3

	視聴した講座
1 本目の講座 2 本目の講座 3 本目の講座 4 本目の講座 5 本目の講座	「カフェは観光資源になるか？」 「データを科学する」 「生きる意味は教えられない？人間にとって教育って何なの」 「ころってなあに～目に見えないところを探る～」 「自他を育む、こころの医学への道しるべ」
↓	
設定したテーマ	『教育は「生きる意味」の問題にどう向き合えるのか？』
アプローチ方法	①「生きる意味」の定義からアプローチする。 ②①で検証した「生きる意味」と「教育学」を結びつけるか考察する。 ③教育と脳科学を結びつけて考える。脳科学に基づいて個別に指導したり、生徒の興味に応じた方法で、生きる意味の探究を行わせる。

(5) 力学の探究 「重力加速度の測定」

- 1 目的 重力加速度の測定を通して、探究学習のプロセスである「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」のプロセスを繰り返し、自然科学における知見を深める。
- 2 実施時期

令和6年11月5日（火）5・6校時	概要説明・仮説の設定・検証方法の検討 各HRのスクリーンにスライドを投影し、 一斉指導	（2時間）
令和6年11月18～20日（月～水）	実験による検証	（2時間）
令和6年11月25～27日（月～水）	追加実験・レポートの作成	（2時間）
- 3 対象 文理探究科1年
- 4 学習プリント

KQI・総合的な学習の時間 ～力学の探究（重力加速度の測定について）～

- 1 はじめに

5月ごろ、物理基礎の授業で「重力加速度 g (gravitational acceleration)」について学習しました。地球上における g の値は約（.....）です。

今回のKQIでは、この重力加速度に関する探究活動を行います。
- 2 実験（探究）の目的・実験（仮説）の決定

重力加速度に関わるのであればどのような目的・仮説でもよいです。
- 3 手順
 - (1) 実験方法を考える
 - ・本やインターネットから、実験方法を考える。
 - ・様々な実験方法があります。記録タイマーにこだわる必要もありません。
 - ・実験手順はできるだけ詳細に記述すること（他の人が見ても分かるように）
 - (2) 実験に必要な道具をピックアップする
 - ・物理実験室にあるもの・・・記録タイマー、記録テープ、はさみ、おもり、スタンド
 - ・物理実験室にないもの・・・班で用意すること（高価なものは使用しないこと）
 - (3) データ処理方法を考える
 - ・得られたデータをどのように処理するかを考える。
 - (4) (1)～(3)を別紙の実験計画書にまとめてください。

5 投影スライド（一部抜粋）



1. はじめに

●重力加速度 (gravitational acceleration)

- ・地球上での重力加速度の大きさは約 9.8 m/s^2

地点	緯度(北緯)	$g(\text{m/s}^2)$
札幌	43°04'	9.8046
仙台	38°15'	9.8007
東京	35°33'	9.7994
京都	35°03'	9.7976
大阪	34°38'	9.7972
福岡	33°02'	9.7921
沖縄	26°12'	9.7819

新編物理基礎(数研出版)より

2. 実験目的・仮説について

●実験目的

？どのような目的（何のために）で実験（研究）を行うのか

？①現状・背景

- ②問題点・未解明な課題の紹介
- ③先行研究や理論の紹介
- ④実験・研究の必要性や意義
- ⑤まとめ

2. 実験目的・仮説について

●実験仮説

? 最も単純なのは重力加速度が 9.8m/s^2 かどうか → ちょっと面白くない・・・

自由に仮説を設定してください!!

3. 探究の手順

●実験方法を考える

- ・本やインターネットから実験方法を考える
- ・様々な実験方法があります。記録タイマーにこだわる必要もありません
- ・実験手順はできるだけ詳細に記述する（他の人が見ても分かるように）

3. 探究の手順

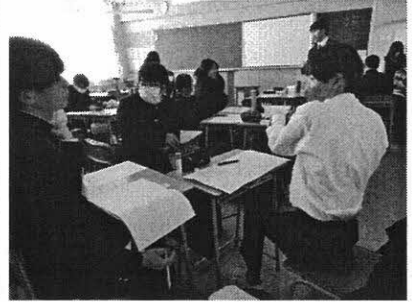
●データ処理について

- ・データ処理方法も前もって考えてください

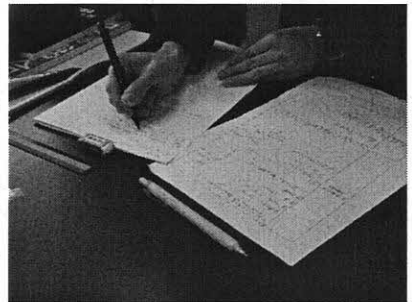
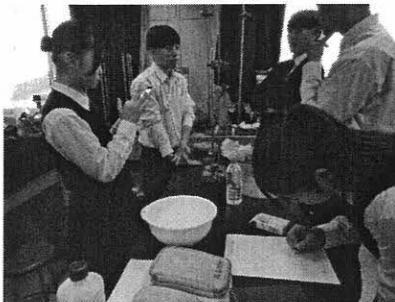
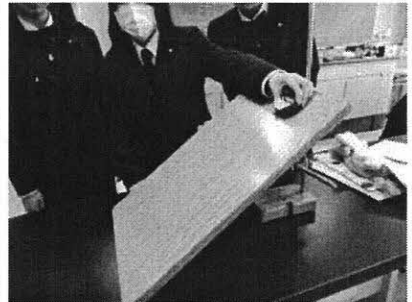
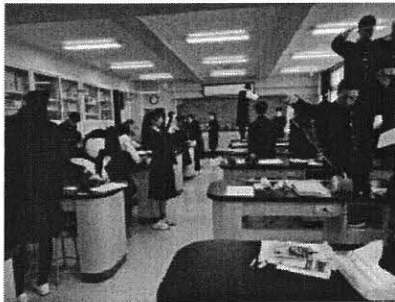
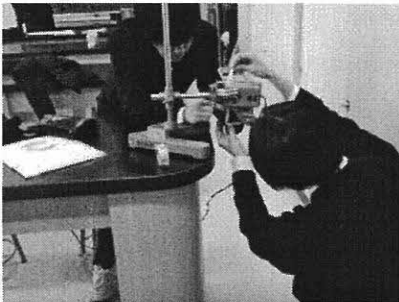
実験方法・実験道具・データ処理方法を配布した実験計画書に記入してください

6 活動の様子

(1) 実験目的・仮説の説定



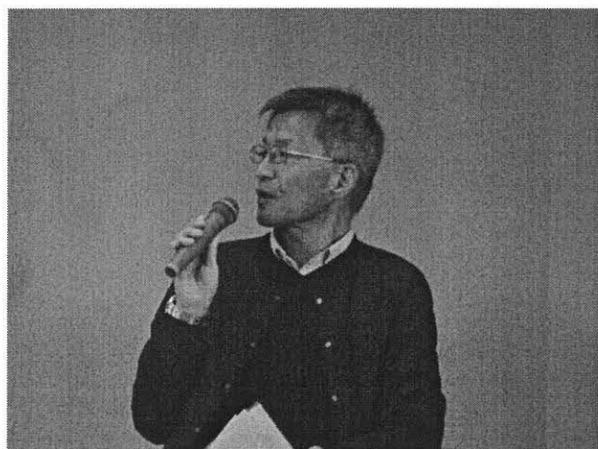
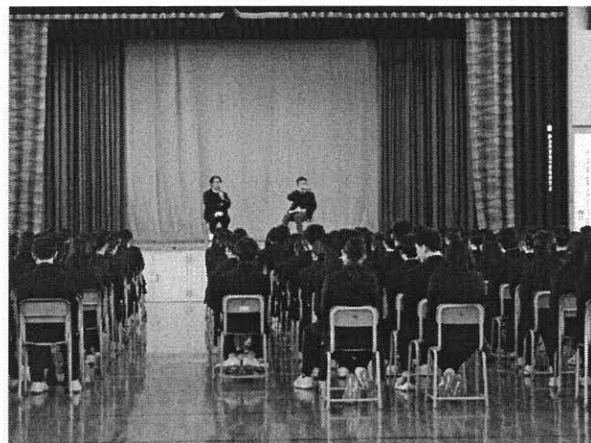
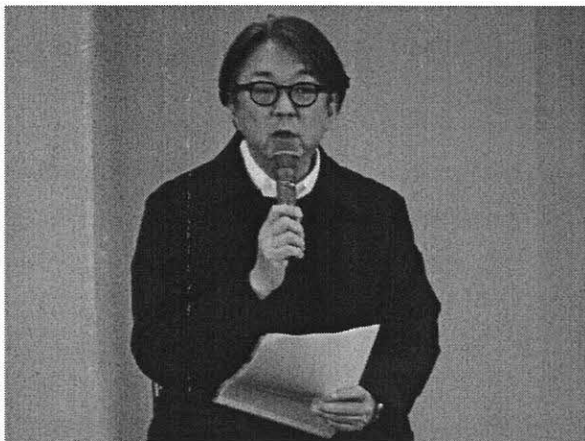
(2) 実験の様子



(3) データ分析・レポート作成

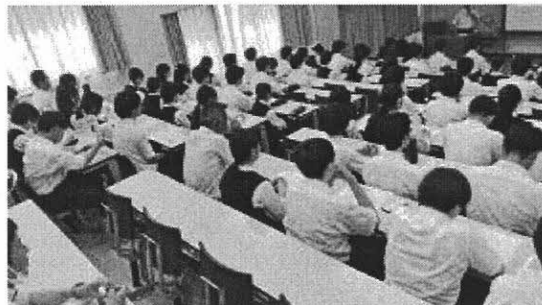
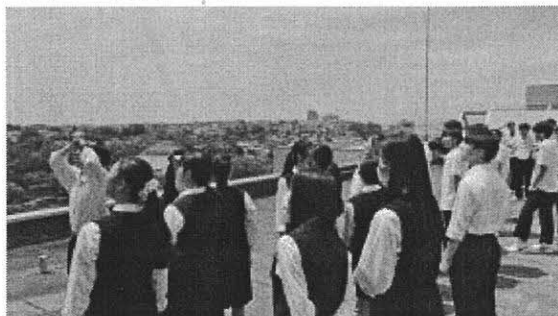


- ・目標に至るまでの過程を具体的に認識することが大切だと思いました。
- ・自分も将来、自らの行動で社会に働きかけることが出来るような道に進みたいと思いました。
- ・例えば何かを計画する主催者の考えと、他の人々の求めていることはことなっていることがあるとわかったので、そこの間の意見の共有を深めるということを学校でも活かしたいと思う。
- ・「第三者になったつもりで、自分を客観的に見る」ということを日常生活に取り入れていきたいと思いました。理由は、樋口さんがおっしゃっていた、面白さを見出すことに加えて、感情が高まった時に気持ちを沈めることができることを学んだ。
- ・ユーモアたっぷりの対談で楽しかったです。番組制作についても知ることができ面白いなと感じました。放送作家のように、まだまだ知らない職業はたくさんあると思うので、何回も調べて具体的ななりたい職業を見つけられたらいいなと思いました。
- ・考え方や捉え方など自分の人生観などを見返す機会になった
- ・放送作家がどんな仕事なのか全然知らなかったのですが、今回の講演会を聞いて、大変だと思うけど、どんなことをしたら人が楽しんでくれるか考えるのは、とても面白そうだなと思いました。
- ・自分が失敗だと感じてきたことでも後から考えたら良いように捉えられるかもしれないという言葉が腑に落ちた。
- ・放送作家という仕事はいかにテレビを見ている人達を笑わせるか、少しでも元気を与えられるかといった非常に大切な存在かを認識することができました。自分の事だけを考えるのではなく、周りに目を向けたり興味をもったりして積極的に行動していこうと思いました。
- ・自分の得意なことを仕事へ活かし活かし、かつ、信念も持っていてすごいなとすごいなと思った。いずれ自分も自分の得意なことを仕事に出来るようにしたい。
- ・いつもの講話と違う会話形式で、新鮮で臨場感があり、なるほどなという感情が湧き聴いていて理解しやすかった。



(7) アカデミックインターンシップ

- 1 目的 上級学校での講義及び研究を体験することにより、普段の高校生活での学びとの違いを理解するとともに、探究心や課題解決能力の育成を図る取組として、高校卒業後のキャリア教育の一助とする。
- 2 実施時期 令和6年7月10日(水) 事前学習
令和6年7月11日(木) アカデミックインターンシップ実施
- 3 対象 普通科2年
- 4 アカデミックインターンシップ
 - (1) 日時 令和6年7月11日(木) 1～6校時
 - (2) インターンシップ先 釧路市内3校(いずれも本校コンソーシアム)
 - ア 国立大学法人北海道教育大学釧路校
 - イ 公立大学法人釧路公立大学
 - ウ 独立行政法人国立高等専門学校機構釧路工業高等専門学校
- 4 各校の実施内容と生徒の感想
 - (1) 北海道教育大学釧路校(生徒76名参加)
 - ア 説明「北海道教育大学釧路校について」
 - イ 講義「探究とは」
 - ウ 図書館見学及び学内見学(2グループに分かれて実施)
 - エ 班別活動「探究計画相談」(9グループに分かれて実施)
 - オ 講義「今後の探究活動に向けたメッセージ」
 - カ 生徒の感想
 - ・探究について「捉え方」と「向き合い方」という2つの矢印があり、自分たちのテーマが課題解決と仮説検証のどちらなのか、拡散的なのか収束的なのかを理解し、どう考えていくのかを整理する必要があるということを知った。また、自分たちのテーマがどんな分野に関連しているのか、それについての資料をどう探せば良いかなどを学ぶ事ができた。
 - ・探究のテーマには、それぞれの向き合い方や捉え方に違いがあり、それぞれに適切なアプローチ方法があるということを知った。また、普段学習している教科の役割も向き合い方と捉え方を用いることで整理することができ、探究テーマとの繋がりを発見できるということが分かった。大学の先生と話すことによって、新しい考え方も学ぶ事ができた。
 - ・今回のアカデミックインターンシップは、これからの探究活動を進めていくうえで、良い経験になった。特にテーマを分類できる指標を学ぶ事ができたのが参考になった。今後の探究活動は、その指標をもとに自分たちのテーマを分類し、正しいアプローチ方法で探究していきたいと思った。



(2) 釧路公立大学（生徒74名参加）

ア 大学案内・講義「学生時代に学び、探究すること」

イ「探究課題と計画に関する相談」

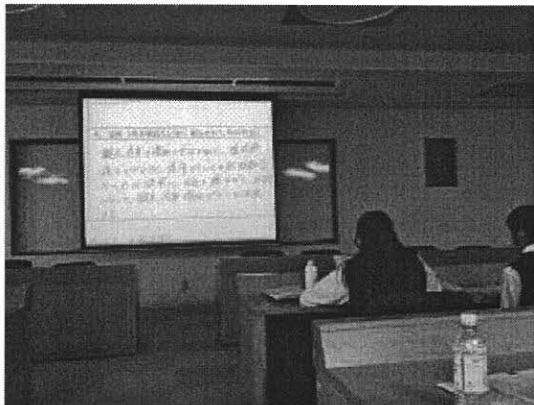
第Ⅰ部（探究課題・計画発表）（5グループに分かれて実施）

第Ⅱ部（改訂版：探究課題・計画の作成）

ウ 感想発表（今日の成果）

エ 生徒の感想

- ・「探究とはわくわくドキドキするもの」指導してくださった先生が、1番大切にしてほしいと話されていたことである。行き詰まったときや結果が出たときに一度振り返り「なぜ？」「他には？」と今起こっているできごとを見つめ直し、視点を変えてみることでより深みのある探究をすることができる。見つめ直しを繰り返し自分が、心から知りたいと思うことを研究する。そうすることで自然と楽しさが生まれもっと知りたいと思えることが、良い探究であるということが分かった。
- ・今回、「動機と目的」に関して詳しく教えていただいたので、今後の探究活動では、国際比較・社会問題との複合的な視点も意識して設定したり調べたりするようにしたいと思う。探究テーマの論点や比較・探究方法などの、新しい視点を得ることができた。今回のアカデミックインターンシップで学んだことを活かし、わくわくする発表を作っていきたい。
- ・私達のグループは、アンケートを用いた調査方法に正確性がないと感じ悩んでいたが、「事例研究」等の調査方法を教えていただき、今後の方向性が明確になった。何か問題が発生したとき、他に方法がないか、本当に正しいと言えるか、常に「？」を持って課題と向き合っていきたい。指導してくださった先生のアドバイスのお陰で、多くの事を学ぶ事ができた。
- ・探究課題に関する下調べはインターネットの検索だけでなく、関連する書籍や先行研究の論文を調べる事などで多くの情報を収集して、より多角的な視点を持つことが必要であると学ぶことができた。
- ・探究活動をする場合、インターネットだけでなく本や論文を使って下調べをするということはもちろん、実際に班で行動し調査活動を試してみる。例えばアンケート調査やインタビュー、現地調査を実施したり、実験をすることで、ただ文献等を調べるだけの探究をする以上の、成果が得られることがあるのではないかと思った。



(3) 釧路工業高等専門学校（生徒48名参加）

ア 挨拶・説明「釧路工業高等専門学校の教育・研究など」

イ 授業／実験・施設見学（5グループに分かれて実施）

ウ 留学生による講演・グループでの懇談

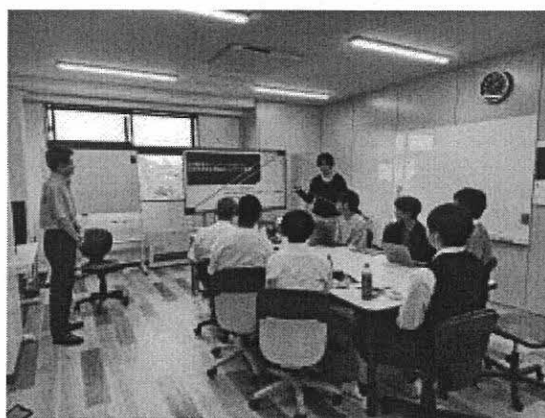
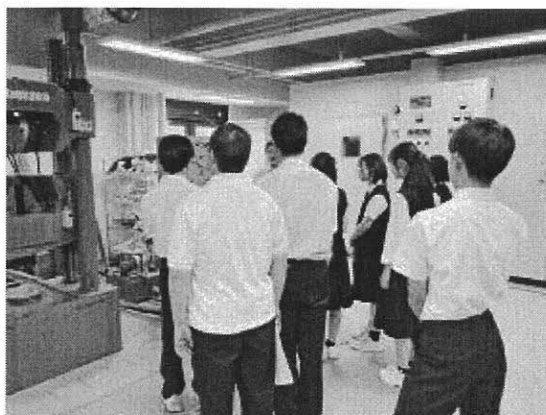
（フィンランドからの留学生の講演と交流を、4グループに分かれて実施）

エ 班別活動「卒研究生との課題探究」（5分野10グループに分かれて研究室で実施）

オ 感想・気づき報告会

カ 生徒の感想

- ・留学生と交流できて良い体験をさせてもらえたと思った。卒研究生との課題探究では、自分たちとは全く違う分野でも必要になる可能性が高い知識を得ることができたり、研究するときの視点の持ち方を知ることができた。今回のアカデミックインターンシップで学んだ事をこれからの探究活動に活かしていきたい。
- ・私達のグループの探究テーマは、一見高专とは縁のないテーマだと考えていたが、先生の研究内容をお聞きしたり留学生と交流することで、自分たちだけでは気付けなかった別の視点から、もう一度アプローチをかけることができるのではないかということに、気付くことができた。今後の探究活動も一つの視点だけにとらわれず、多方面から見る事が大切だということを学んだ。
- ・自分たちの考えを可視化するという事は、物事が整理できて簡単な事だけれど大切だと学んだ。私たちは探究ルームで探究活動をしているので、ホワイトボードを活用して自分たちの考えを可視化することで、どの情報が必要なのか取捨選択するようにしたい。
- ・探究のテーマ決定について指導していただいた際に、現状の課題を解決するためにはどのようなことが必要かを検討した。その中で今ある物を有効活用するという新しい視点を得ることができた。釧路をどのようにしたいかを先に考えるのではなくて、現状の課題を先に考えることが重要だということを知ることができた。
- ・私たちの班では「避難タワーの構造について」をテーマに探究活動を進めてきた。釧路工業高等専門学校では「釧路駅」に注目して現在ある課題を解決するためには、どのようなことが必要かを話し合い、今ある物を有効活用するという新しい視点に関してご指導いただいた。現状の課題を考える事が必要だと分かった。



(8) 「KoryoQuest」 特別講演会

1 目 的 理系出身の外務省員による外交政策や国際情勢等に対する講演を実施することで生徒の視野を広げること、さらに今後の進路選択の一助とすることを目的とする。

2 実施時期

令和6年7月17日(水) 5～6校時 放課後、校長室にて座談会(希望者対象)

3 対 象 普通科2年・3年

4 講 師

外務省 大臣官房 考査・政策評価室課長補佐
田代久美氏

5 演 題

「外務省の仕事～よりよい未来を共創する～」

6 概 要

- (1) 外務省の役割や業務
- (2) 外交政策や国際情勢等における課題

7 生徒の感想

- ・外務省についてよく知れたし、クイズや質問コーナーがあってとても楽しめました。外国に行ってみたくなりました。
- ・普段はあまり意識していない知識に触れられて良かったです。
- ・外務省では、外交官のイメージが強く、他にも様々な職業の方が働いている、というのは今まで気づきませんでした。職業と職場が必ずしも結び付くとは限らないと知り、将来の視野が少し広がりました。質問コーナーでは、色々な答えが聞けて興味深かったです。
- ・今までは、外交と聞いてもイメージがすぐに浮かばなかったのですが、直接お話を聞くことができ、外国との関係をより身近に感じることができました。
- ・田代さんのお話は非常に興味深く、印象的でした。新しい視点を学ぶことができ、大変有意義な時間を過ごしました。秘書官の方からのメッセージで、地方からでも国の重要な職務につけることに興味と希望が持てました。
- ・外務省の仕事は知らなかったし考えたこともなかったので、知ることができて将来の選択肢が増えた気がした
- ・外務省の仕事を知る機会があまりなかったので知ることができてよかったし、自分も将来関わることがあるかもしれないとわかって、少し興味がわきました。
- ・自分のやりたいことを指針とすることで困難があっても立ち向かうことができると秘書官さんの言葉を聞いて私は今漠然としているやりたいことについて明確にしていきたいと思いました。外務省の中でもたくさんの職業があり、普通の職業だと思っていたものが外務省に関わりがあるということを知って勉強になりました。
- ・講演会では、外務省内でも外交をする人だけではなく、沢山の仕事があることがわかりました。また、外務省に入るには、



◆外交や外務省の仕事
を説明 外務省職員が外
交の役割や国際問題など
を話す講座が、釧路湖陵
高で開かれた。
外務省は全国の高校に
職員を派遣しており、大
臣官房考査・政策評価室
の田代久美課長補佐(写真
真)が普通科2、3年生

約220人を前に17日に
講演した。クイズを交え
ながら、外務省の組織や
仕事などをわかりやすく
説明。日本と国際社会の
平和の確保や、世界の諸
課題の解決などを目指し
ていると語った。
2年生の戸田巨音さん
(16)は「外務省の仕事に
今まで以上に興味が湧い
た」と話した。

(出原千啓)

(出典 令和6年7月30日(火)北海道新聞記事より掲載)



英語はもちろん、国家公務員試験に合格することが必要とされ、高校生でも受けれるものがあると聞き、ぜひ挑戦してみたいと思いました。また、秘書官として忙しい中、私たちへメッセージを送ってくださり、ありがとうございます。秘書官という素晴らしい方からのこれからに関するアドバイスを頂くことができ、貴重な時間となりました。



- ・この講演を聴いて、今後自分が何をしたいのかもっと考えようと思いました。
- ・外務省は国のお仕事だし堅苦しいイメージがあったけれど自分たちも参加しながらお話して頂けて分かりやすかったし楽しかった。どんなお仕事をしているかを初めて知ったけれど海外と繋がるお仕事でとても楽しそうだった。自分も海外に関わる仕事に興味があるので自分でも外務省についてもっと調べてみようと思った。
- ・聞いている立場の自分たちも能動的でいられるとても楽しい講演でした。外交官と聞いてエリートというイメージしかなかったのですが、今回の講演で清掃員などの身近な職業も外交官として働いたりすることを知り、外交官というものとの距離が縮まった気がします。
- ・すごく色々な話があって、自分には到底体験できないような話ばかりで勉強になりました。
- ・外交を行ってる方の話を聞くのは初めてだったのでとても興味深くて面白かったです。海外の話聞く中で私も留学したい気持ちが強くなりました。
- ・貴重なお話が聞けて勉強になりました。応援するメッセージもやる気を出すきっかけになったのでよかったです。
- ・今までは、外交と聞いてもイメージがすぐに浮かばなかったのですが、直接お話を聞くことができ、外国との関係をより身近に感じることができました。

8 講演後の座談会（校長室）



(9) 成果発表会に係る事前指導

1 目的 生徒の探究活動に関して、コンソーシアム「チーム湖陵」を中心に釧路市内の企業・高等教育機関、関係団体から講師を招聘し、専門的な知識を踏まえた立場から成果や課題等についての指導を受ける。

2 実施時期 令和7年1月21日(火)・23日(木) 14:00～15:30

3 対象 普通科2年

4 参加事業所と指導していただいた探究テーマ

(1) 釧路市総務部防災危機管理課(「チーム湖陵」)

「災害時のプライバシー確保における新しい選択肢」

「避難できるのにしない人をゼロに」

「釧路において、津波の人的被害を抑えるために最も効果的な避難タワーのデザインはなにか」

「津波に対する災害意識の向上」

(2) 釧路市立中央図書館

「湖陵生の読書週間について」

(3) (株) 松井建設(「チーム湖陵」)

「未来はこうなる？私たちの理想のおうち～目指せ家づくりの匠(巧)～」

(4) 宮脇土建(株)・北海道富士電機(株)

「太陽光発電の設置方法」

(5) 釧路コールマイン(株)(「チーム湖陵」)

「再生可能エネルギーは本当に環境に良いのか」

(6) (株) 釧路火力発電所

「地球温暖化防止のために発電からどうアプローチできるか？」

(7) 釧路教育局(「チーム湖陵」)

「楽しい学校生活はどうやったら過ごせるか」

(8) 北海道教育大学釧路校(「チーム湖陵」)

「湖陵生限定のSNSアプリ作成及びその効果」

「個人にフィットした学習スタイルの提案」

「色はなぜ違って見えるのか～体育館で釧路の夕日を再現～」

「釧路の災害危険性 ～津波から町を守るためには～」

(9) あかり社労士事務所

「週休3日制を実現したい～よりよい労働環境を求めて～」

(10) 日本銀行釧路支店(「チーム湖陵」)

「投資人口増加のための課題と解決方法の検討」

(11) 釧路市立高等看護学院

「釧路に焦点を当てた看護師不足を解消するために

～実際の声から病院内の労働環境についての考察～」

(12) 釧路プリンスホテル

「宿泊施設を利用した観光消費増加方法を探る」



(13) 釧路信用金庫（「チーム湖陵」）

「みんなで分別！みんなでエコロジー！～誘導の魔法にかけられて～」

5 生徒の感想

- ・自分たちでは見えなかった視点での考え方を教えていただき考えの幅が広がった。
- ・探究を通じた新たな視点や知識を得られた。アドバイスを活かし、次の課題にも主体的に取り組みたい。学び続ける姿勢を大切に、更なる成長を目指したい。
- ・アンケートの結果をどのように活かせば良いかについて、助言をいただき探究を進める上で活用していきたい。
- ・自分たちが不可能と考えたことは、自分たちだけの考えであり、実際に不可能か否かを判断するのは早いということを学んだ。
- ・外部の方に助言していただくと、行き詰まっていたように見えてもまだ進められる余地があり、これからやるべき事が明確になった。
- ・図書館で本を借りる高校生の状況も知ることができた。訪問図書を担当の方から、他の小中高校の状況を教えていただいたので、そこでのアプローチ方法を活かしたい。
- ・具体的な数字を発表に入れることで説得力が増すこと、投資の始め方についての体験談、国が行っている金融知識指導についてなどを教えていただいた。探究活動の結論をより深める為には、金融知識以外の分野の知識も必要ということが分かった。
- ・実際に避難タワー建設の計画に携わっている方のお話を聞くことができとても良かった。気付けていなかったことについて、正しい知識や専門性のある事柄を学ぶ事ができた。
- ・収集したアンケートデータの活用方法を学んだ。作成するサイトにおいてあったらいい機能を助言していただき、診断サイト作成ということで、個人の自己理解を目標にしていたが、他者理解のツールとして使用できる可能性があることを教えていただいた。
- ・実際に避難所を運営する方のお話を聞き、高校生の私たちとは違う視点でアドバイスしていただいた。避難所と避難場所という言葉の違いでは、その違いが専門の方にとって大事なことだと分かった。避難所の運営で危惧されることや困難な事を教えていただき、今後の活動で実現していきたいと考えた。
- ・単語一つでも意味が変わってしまう事があり、正しい知識を調べることがとても大切だということが分かった。発表会では正しい言葉を使って丁寧に発表したい。
- ・避難所では間仕切りをすることで風邪の人の隔離や気持ちが落ち着くなど、いろいろな状況に対応できる事を知ることができ、探究の観点の1つにしたい。釧路には製紙工場があるので、壁の素材として地産地消ができることを知った。

